

図書館利用者と練馬図書館長との懇談会

- 1 日時 平成26年11月9日（日） 15時45分～17時15分
- 2 場所 練馬図書館 会議室
- 3 参加者 利用者 4名
図書館 4名
(練馬図書館長、次席、主事、主任図書館専門員)
- 4 配布資料 (1) レジюме
(2) 練馬区立図書館ビジョン（概要版）
(3) 練馬区立図書館利用案内
(4) 平成26年度練馬区教育要覧（図書館部分抜粋）
(5) 平成26年2月実施 練馬区立図書館利用者アンケート
(6) 図書館だより第27号
- 5 次第 (1) 練馬図書館長あいさつ・区職員紹介
(2) 練馬図書館の概要
(3) 懇談

図書館利用者と練馬図書館長との懇談会 要録

1 練馬図書館長あいさつ・区職員紹介

本日は、館長との懇談会にご出席いただきまして、どうもありがとうございます。

今回は「練馬図書館のここが好き、ここが嫌い」というテーマで、これからの練馬図書館を考えるための懇談会を開催させていただきます。

この懇談会の内容ですけれども、ホームページに掲載するため録音させていただきますので、ご了承願いたいと思います。

今回は、練馬図書館に関する内容が中心になりますので、図書館全体に関する内容については、所管の光が丘図書館とも調整しまして、後日、ホームページで回答するよういたします。また、お時間がありましたら、11月15日に光が丘図書館でも館長との懇談会を開催しますので、こちらの方で練馬区立図書館の全体的なお話ができるのではないかと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

2 練馬図書館の概要（説明・質疑応答）

(1) 「練馬区立図書館利用案内」

ア 受取窓口の現状と大泉地域への新設予定

イ 10月より貸出期間を3週間から2週間に変更

(2) 「平成26年度練馬区教育要覧」図書館部分抜粋

(3) 「練馬区立図書館ビジョン」

ア 今後10年間の練馬区立図書館が目指す4つのサービスの方向性

(4) 「利用者アンケート」練馬図書館分

(5) 「図書館だより」

ア 練馬区立図書館全館の案内を掲載

イ 年3回発行（次回は、3月に発行予定）

(6) 練馬図書館事業案内

ア 昭和37年8月に練馬区立図書館で最初に設置された。

イ 現在の建物は、昭和60年6月に元々公民館があった場所に、図書館と公民館の併設で開館

ウ 平成24年秋の読書週間に練馬図書館・練馬区立図書館50周年記念行事を開催

エ 練馬図書館の蔵書は約16万冊。内訳は一般書が約10万4,000冊、児童書が約3万7,000冊、青少年資料が約2,000冊、CDが約1万点強

オ 入館者数は昨年度55万8,972人、1日平均平日約1,700人、土休日は約2,200人。

個人貸出数は昨年度20万8,989人、平日平均約700人、土休日約1,000人。個人貸出点数は昨年度約59万2,000点、平日約1,600点、土日休日約2,500点

カ 資料提供状況は、練馬区立図書館他館からの取り寄せ分については、第1便は10時頃利用者の方に提供でき、第2便は、12時過ぎから1時過ぎに提供できている。都立図書館や他の自治体からの取り寄せ分については、木曜日に提供できている。

キ 練馬図書館の施設は、座席数が約100席、臨時閲覧席が24席。閲覧用のインターネットのパソコンが3台、自動貸出機が2台、CDの視聴機が2台、拡大読書器が1台、館内の資料検索機が4台

ク 各種講座、よみきかせ、おはなし会、ブックスタートを実施している。学校事業としては、団体貸出、学校訪問、ブックトーク・おはなし会、探検ラリー、中学生の職業体験の受入などを実施

ケ 4月から練馬図書館が平和台図書館と関町図書館の事業支援を開始し、現在は一般図書と児童書の管理、学校への団体貸出の支援を実施。今年の4月より、カウンターを8時半から4時半まで区直営、4時半から閉館までを委託事業者が運営。区職員は土日を含めて出勤している。

利用者 練馬図書館の開館時間が9時から、通常は、土日ですと7時までで、平日は8時までですが、会議室は9時までとなっています。この辺の理由は、どうなのですか。

図書館 会議室は、夜間利用の方は会議室正面の出入口を内側から閉めてしまって左側にある、トイレ側の出入口を利用することになります。鍵も生涯学習センターの受付窓口に、最後に終わったら返していただくという形で対応しています。

利用者 実際に夜間利用はあるのですか。

図書館 結構定期的に利用されているグループがあります。練馬図書館の会議室は、生涯学習センターの会議室が取れなければ、ここを利用するというグループがあります。

3 懇談

図書館 では、懇談会ということで、いろいろとご意見をいただいきたいと存じます。

利用者 練馬図書館は、本当にお年寄りから赤ちゃんまで練馬図書館を十分利用されていると思うのですが、狭いですから、新聞を読もうと思ってどこかあいた座席がないかと思っても、なかなかないというような状態を抱えています。それに、図書館の資料を使ってという建前ですが、勉強をしている方たちが密集しているから、そういうことでは、本当にもっともっと図書館の数が必要だなと思います。

図書館 新聞コーナーに空き席がない時は、臨時閲覧席を設置している時でしたらこちらで閲覧していただくようにしていただいています。ただ、逆に、臨時閲覧席で本を読んでいる方が、新聞をめくる音が若干気になるというようなことがあります。席が少ないという部分については、アンケートでもご指摘をいただいています、図書館として臨時の椅子を配置できないかということを考えてはいるのですが、何しろ書架も不足していてブックトラックに本を並べている現状です。今ブックトラックを置いているスペースに椅子が置ければ良いのですが。確かに土日に来館されて、仕事がある方は土日しか利用ができないですが、いつ来ても座る場所がないというようなご意見をいただいていますので、その辺は何とか工夫していきたいと思っています。

利用者 工夫したいとおっしゃるけれど、どんな工夫があり得ますか。

図書館 ブックトラックを別の場所へ移すとか、書架を整理してもう少し閉架に移し、空いたスペースに丸椅子などを幾つか増やしたいと考えています。

利用者 奥の書架の端に、丸椅子がありますよね。あの丸椅子を利用者が勝手に自分の好きなどところに置いて読めるということは良いことです。もう少し数を増やして欲しい。

図書館 では、その辺は工夫させていただきますが、通路として使っている部分がありますので。この広さ自体はまずどうしようもありませんので、その中でうまく何か工夫ができないかということを考えていきたいと思います。

利用者 貫井図書館は美術館が併設されていますね。美術館と、結構面白い絵画展とのコラボをしていますが、練馬図書館は生涯学習センターと併設で、かなり多様な利用者がいると思うのですけれども、何かコラボはしているのですか。

図書館 生涯学習センターは、教室とかホールを持っていますので、図書館の事業で人形劇など人数が集まるような行事は生涯学習センターの施設を使っています。図書館主催の講座でも、40人位の規模が大きい講座については、生涯学習センターの教室を利用しています。

今おっしゃられたように、学習センターは様々な講座をやっていますので、その講座に関連する資料を練馬図書館で集めて年間を通して図書館内に生涯学習センターの展示コーナーというものを作っておりまして、図書館利用者の方に借りていただくという提携は行っています。練馬区立図書館ビジョンの中にも、関連部署との連携施策を掲げていますので、そういった形で、徐々にですけれども、広げていきたいというふうに考えています。

利用者 練馬図書館は、私も区役所に行ったついでなどにたまに寄らせていただいています。区役所では区政資料や、あるいは都政資料、国政資料、政治、行政に関する資料も、いろいろとありますし、情報公開室もありますね。そういう区で情報として出す資料を、なるべく図書館に置いてくれと、光が丘図書館長に言っているのですけれども、そういうものは、ぜひ全部揃えて練馬図書館へ来れば見られるようにしていただきたい。

区役所に区民情報ひろばはありますが、あれこそ狭い。だから、練馬図書館へ置いていただきたいです。

図書館 行政資料については、練馬図書館としても、区役所の近くという特徴を生かして集めるようにはしているのですけれども、なかなか、全てが全て集められてはいませんが、できるだけ集めるようにしていきたいと思います。

利用者 何かネックになるようなものはあるのですか。

図書館 いや、特になのですが、練馬図書館に送付されて来るものについては当然資料として入れるのですけれども、区で作成されている全ての資料の情報が練馬図書館に来てはいないので、区でどんな資料が作成されているか図書館側で調べて、なるべく、区役所で発行している資料は全て練馬図書館にもあるという対応をしていきたいと思います。

利用者 どの図書館にもお聞きしているのですが、職員の方は閉架の本棚に何があるのかというのはネットで見てくださいというのですけれども、練馬図書館では、閉架の本棚を直接見せていただくことはできるのでしょうか。

図書館 閉架は事務室に直結していますし、閉架で職員が作業しておりますので、今のところ常時開放は難しいと思うのです。ただ、先ほどお話しした、2年前の50周年記念事業で館内見学ツアーというのを練馬図書館で実施しまして、閉架も含めて見学していただきました。

利用者 毎年やればいい。

図書館 その時は皆さん非常に興味がおありでした。開架は大体皆さんおわかりになっているので閉架で時間をとってご自由に見ていただきました。ご要望がおありですので、また企画したいと思います。

利用者 企画された時は、練馬区立図書館のホームページもあるけれども、図書館だよりも載せてもらいたいですね。

図書館 載せます。

利用者 区議の勉強を助ける積極性を、区役所の至近のところに練馬図書館があるのだから、練馬図書館の特色として、そういうことをして、もう少し議員の質を高めていただきたいと思いますね。

図書館 浦安の図書館はやっています。

利用者 浦安と、北海道でもやっていますけれども。練馬図書館でも、ひとつやってみてください。

利用者 私は、練馬にお嫁に来たのが昭和44年だったのです。それから、ここでずっと、子どもを産んで、子どもを産むことを全然ためらわずに4人産めて、それを全部図書館に通いながら育てることができた。幼稚園にも保育園にも入れなかったのです、経済的な事情もあって。ここで間に合ったのです。全部が、ここに来ることで、私は生活してきたなと思っているのです。本当にありがたい。

今日、ついさっきまで、「図書館の達人になる」という講座に前から出たくて、やっと

出られて、それで勉強しながらつくづく思ったのが、私の人生は、ここに図書館があって、ここに来られて、ちょうど歩く距離が一駅なのです、桜台から。何もかも、何も怖いことがなかった、何も疑わないで済んだ。とにかくここに来さえすれば、どうにかなった。それで、毎日、元気に家に子どもと一緒に戻ることができた。今は、そういう文化ではないでしょう。怖いことがあって、いつも、いつも子どもも親も気にしなくてはいけない。

果たして、何一つおびえることなく、何一つ遠慮することなく、のびのびと、何も怖いことも、叱られることも、一つもそんなことがこの世にあることなんて、夢にも思わずに育ててきた。私自身が育ってきたということです。子どもを育てるつもりだけで、子どもなんか勝手に育ってくれるのです。私が子どもにぴったりくっついて、全部子どものエネルギーとか、ここが、まだ公民館と別の場所だったときから楽しい。とにかく場所が狭いとか何とか考えたこともなかった。ここにいられることだけが、充実していたのです。

あれで済んでしまった、あれで人生の半分、一番大事な時期をここに毎日毎日来ることで。月曜日の休館の日の「寂しかった」は、なかったです。でも、そういう、ないときは寂しいという思いも含めて、あれほどいい時代が世の中に確かに存在したのだと、大げさなようですけれども、改めてつくづく思います。

4人の子どもたちはそれぞれ今親になっているけれども、図書館は一つの人生の一部なのです。みんな勤めています。それで、勤めながら子どもを育てて、保育園にふだんは入れていますけれども、私ほどに利用することはないですけれども、人生の中で必要なものの一つとして、図書館が彼女たちの価値観の中に、深くしみついているということが、私はこんなにありがたく、こんなに幸せなことはなかった。練馬に嫁いでよかった。変な話ですけれども、本当に改めて今日思ったのです。

それで、私自身がいろんなところにパートですけれども勤めて、そこでもまた図書館を利用したのですけれども、麹町図書館とか、本郷図書館。朝鮮の図書館にも行きました、朝鮮の国の。あそこの図書館の事情とか、いろいろと見ると、本当に、この辺の図書館というのは、自分の館にない本も必ず取り寄せてくれて、ありません、諦めてくださいということは絶対にないのです。それは、すごいことだと思うのです。今まで税金なんか払うのは大嫌いだったけれども、このごろ何となく、こういうときのために役立つのは、本当にちっとも惜しくないかもしれないと改めて思うようになりました。本当にありがとうございます。

図書館 こちらこそ、非常にありがたいお言葉をいただきまして。

利用者 お話を聞かせていただきまして、ありがとうございました。

利用者 今、昔話が出たけれども、その少し昔の話を私も。まだ結婚して間もなく、練馬に引っ越してきたのです。それで、まず図書館に行きましたら、「利用登録をするのに、お米の通帳を持っていらっしゃい」と言われた。お米の通帳と、保証人が二人いると言われたのです。それが昔々の話です。そのころ児童室はなかったのです。それで、子どもが生まれて、ちょうど松谷みよ子さんの「いないいないばあ」とか、そういう作品が出始めたころなのです。図書館に行って、子どもの本をお借りしたいと言ったら、そういう本はありませんとおっしゃった。それで、赤ちゃんは利用の対象ではありませんと言われたのですけれども、それからしばらくして、また行ったら、そのころ、二度目に行ったときには「いないいないばあ」とかがあったのです。それで、入っていくと、持ち物はロッカーに入れて、ペンとかインクは持って入ってはいけませんということになっていた。

利用者 国会図書館みたいなものですね。

利用者 入会料というのを払って、入ったのです。それで、目録カードをめくって、これを読みたいと思う本を探して、請求票を出して、司書の人が閉架からその本を持ってきてくれた。違うなと思ったり。そういう時代もしばらくありました。それから、すぐ開架になって、自分で本が選べるようになりましたけれども。2、3年はそういう時代があったような気がしますね。

利用者 私は今、ホフファーの「波止場日記」という本を読んでいるのですけれども、この本では図書館で勉強するだけで、大学教授までなるのですよね。私も、本当にこのごろ、図書館というものが、いかに人間にとって大事か、下手したら学校なんかより、よほど大事な気がする。学校は、いじくり回すところがあるけれども、文部省の決まりとかはないでしょう。何しろ、本当に自由な精神みたいなものを、絶対にそれをそがないというか、だめにはしない場所という意味でも、大事なところだと思う。

私は、今までに4回憲法裁判というのをしているのです。そのうちのほとんどを、私は自分でしました。弁護士を立てないで。その場合に一番大事なのは図書館にある資料だったと思います。全部ありましたね、図書館にさえいれば、判例もあるし、今までどんな裁判を日本人はしてきたかということも、戦後、戦前もあるでしょう。何しろ、あれから全部資料は集めることができますから、そういう意味でも恵まれていた。どの裁判ももちろん負けましたよ。自衛隊の派兵反対とか、そういうのですから。でも、立派に闘える、弁護士がいなくても、図書館があれば、図書館の資料さえあれば、一人でちゃんと闘って、

ある程度一定の裁判長からの言葉ももらえるのですから。これも、本当は私たちの財産にしているのではないかなと、つくづく思っています。

利用者 図書館の効用ということですね。

利用者 そうですね。

利用者 そういう利用の仕方も。

利用者 おうちを建てるのに、図書館の資料を使いましたよね。立派なうちを、思うとおりのうちを建てた。

利用者 そこで、その蔵書のこと、今お話を伺ったような、何でも図書館に来れば満ち足りて借りられると。しかし、私が今借りているものは、練馬区の図書館で借りようと思って借りられたのは大体2割から2割5分ぐらいなのです。ほかは、都の図書館だとか、国会図書館から取り寄せてもらっているわけですね。岐阜県立中央図書館からも取り寄せてもらっています。練馬図書館のカウンターでは取り寄せができますが、前はだめでした。そんなものは扱えませんかと言われた。その本が、「漱石入門」という岩上順一が書いたものですけれども、昭和59年に出た本です。この図書館が去年でしたか、一昨年でしたか、練馬区立図書館で所蔵していたはずなのですが。それが今、東京にはなくて、国会図書館にあるのですけれども、国会図書館は時間がかかってしょうがないし、こういう長いカウンターのところで、閲覧しかできないから。国会図書館にはいろんな人が申し込みに来るので、ノートをとるところではないのです。だから、国会図書館ではだめだということ。初めは神奈川県立中央図書館にあったのですけれども、それが古くばらばらになってきて、これがやばいなと思って返して、今度はほかを探してくださいって言ったら、岐阜にあった。北海道の中央図書館や、道立図書館にあるみたいですけれども、全国に四冊ぐらいしかない。練馬区の練馬図書館も買っていたと思うのです。みんなどこかで、どの時点かで廃棄してしまったとか。そんな貴重なものをどうして残しておかない。

練馬区には本が不足しているというか、調べたい本を所蔵していないので杉並中央図書館から借りています。そうすると、杉並が45万人の区民の人数に対して、図書館が13あります。そして蔵書数は250万。練馬区はどうですか。

図書館 190万ぐらいです。

利用者 190万ぐらい。とんでもないですよ、71万人いて、190万冊しかない。杉並区は45万人いて250万冊ぐらいあるのです。これだけの差があるのです。本が不足しているのです。

こちらの方が、今度、テーマ展示をやるということになったのです。そして、原発再稼働の時勢から、そういう原発関係の本をそろえて展示をやろうとしたら、本がそろわない。原発の書籍が不足しているのです。これは何とかしていただきたい。これは、各館がすることはない。光が丘ですけれども。館長会でぜひ言っていただきたい。待っている人は当然出てきますよ。

図書館 蔵書が、区民1人当たりの冊数が少ないと言う問題意識は持っていて、改善のために保管庫を増やしています。

利用者 さっきの方がおっしゃられたように、練馬図書館を最大限利用して来ることができたのはこの方が必要としていた本が練馬図書館にあったから利用できたのです。私が必要な本は練馬区立図書館に十分ないのです。私は他区から本を4区から借りています。私が関係している大学一つ、それと、ここの、6館から借りている。それに対する返却の日にちの管理とか、労力は大変なのです。そんな状態ですから、ひとつお願いしたい。

それから、もう一つ、今度の10月から貸出期間が3週間から2週間です。そうすると、返す時期が非常に迫ってくるのです。その分だけ余計図書館に行かなければならないのです。それで、今、延長が1回できるだけではないですか。そうすると、9月以前は3週間で1回延長すると6週間でした。だから、貸出期間が2週間になりますと、他区などは2週間ですよ、所蔵図書が多いですからね。他区の貸出期間をにらんでやったのでしょうか、練馬区では延長できる回数をもう1回増やして、延長を2回できるようにしてやると6週間になる。電話をかけて2回延長できると、助かるのです。それをぜひ実現していただきたい。

図書館 予約の入っていない本ですか。

利用者 もちろんそうです。そのように、ひとつお願いしたい。

図書館 では、そういったご要望ということで、光が丘図書館にお伝えさせていただきます。

利用者 私は、たまたま光が丘図書館でテーマ展示を年2回やっているのですが、中南米の本をいろいろ調べたのですけれども、大人の本が少ない。テーマを決めて、それを集めようと思うと、なかなか。光が丘の、一番蔵書も多い図書館でそろわないということは、かなりほかの図書館の利用者の方も、蔵書がないとか、他区から取り寄せていただいて、時間がかかるとか、そういうことで悩んでいるのではないかなと、つくづく思ったのですね。

もう一つ、そのテーマを決めて、何冊も読んで、他の人と読み合わせもしているのです

が、そうすると、2週間では本当に足りないですよ。そういうマイナス面を何か補完するようなサービスを考えていただくと、ありがたいなと思うのですけれども。私も今回テーマ展示をやる時には、本当に図書館に日参したぐらい、随分、2、3か月前から読み始めて、かなりの回数、図書館に通ったのですよ。たまたまできる身分だから、いいのですけれども。そうではない方もいらっしゃると思うのです。

図書館 貸出期間が短いと、図書館へ行く機会も2週間に1回に。

利用者 予約を押さえるのも限度がありますでしょう。

図書館 そうですね、10点ということですね。

利用者 その辺の、マイナス面の代わりになるサービスが。自動延長も一つの案だけでも。例えば、障害者サービスか何かで送っていただいたりしているサービスがありますよね。あれは、例えばシニア層が増えてきて、今、要介護者が増えていると思うのですが、どう適用するのですか。

図書館 練馬区立図書館利用案内の「おからだの不自由な方へ」をご覧くださいと、郵送貸出サービスで、要介護の方だと、要介護5と認定された方。肢体不自由の方は身体障害者手帳で1・2級、内部障害の方は1～3級という、こういった方について対象になっています。手帳をお持ちでなくても、要介護は、程度によって対象になるという形です。

利用者 そうなのですか。

図書館 そのかわり郵送ですので、郵送のやりとりという形になります。ですから、今日は来館で図書館を利用して、今度は郵送ということではないですね。

図書館 カードを持ってくれば、自館でも借りるということはできます。

利用者 あとは、団体貸出というのがありますよね。もう少し気軽な、例えば利用者の会でやったイベントで、本をたくさん読まなければいけないというときに、ミニ団体貸出みたいな制度で、もう少し短期間でいいから、30冊は借りられるとか、そういう新しいサービスというのはどうでしょうか。

図書館 団体貸出は、児童だけのサービスではないので、例えば読書会だったり、利用者の会という団体のカードをつくっていただければ、最大限が3か月・300冊なので、うち30冊だけ借りるということもできます。

利用者 ああ、そんなことができるのですね。

図書館 それで、さらに必要ないということでしたら、終わった段階で利用カードを返納していただければ。

利用者 光が丘図書館の利用者の会で団体利用のカードをつくるというものもできるんですか。

図書館 できます。それは光が丘で確認していただいて。

図書館 例えば学校ではなくて、学校でボランティアをしているお母さんたちが、よみきかせの会というので団体のカードをつくって、それで例えば秋に読む本を夏に集めて読み比べて、必要なものだけを残して、あとは返してというような借り方をもう既にしていて、子どもだけを対象にしているわけではないので、それは団体の登録で借りています。

利用者 利用カードを図書館に置くのですか。

図書館 個人の、誰かが預かって持っていていただいているという形です。

利用者 その要件としては、何か提出する資料があるのですか。

図書館 そうですね。名簿のような、要するに練馬区民の団体であるというのがわかれば、特に人数の制限は団体の場合はなかったと思うので、利用者の会のように、練馬の方でなさっている会だったら団体の登録ができるので。

利用者 そういうホームグラウンドというか、その代表者が、また個人委託で借りた本は、私が管理人になるわけですか。

図書館 そうです。管理をお願いするので、借りた本を図書館に置いておいてくださいということではできないので、誰かが責任を持って、もちろん、なくされた場合は弁償していただいたり、汚した場合は弁償となりますので、その辺は誰かが管理していただいて、その中で貸し借りをするわけです。それで、Aさんがなくしたとしても、借りている代表のBさんに弁償いただくというのと、あと督促も、そういう形にはなります。

図書館 貸出のリストが出ますので、それで管理していただければ。

図書館 今何を借りているかとか、今日何を借りたかというリストをその都度差し上げることができますので。

利用者 それで、結局、2週間の貸出期間というのは、最初からいた職員は、非常に苦労して練馬独特のことで3週間獲得したのだということが言えるのですよね。それが2週間になったわけですね。これは、私どもにとってはマイナスですね。普通役所がやられるのは、マイナスもメリットもデメリットもあって、例えば杉並区立図書館の場合、練馬は10冊しか貸さないけれども、杉並は15冊です。それから、杉並は休みは月に2回なのです。練馬は大体4回あるではないですか。

図書館 そうですね。月曜日の第5週があるときは4回です。第4週の月には3回です。

利用者 3回と4回。何しろ2回ではないですね。杉並は2回です。中野も2回です。だから、近辺の区で休館日の縮減は、どんどんやっているのに、デメリットのことでだけされて、メリットは何もないですよ。普通はてんびんにかけて、やるではないですか。そのところは館長会議で言っていたかないと、どの館も言っていたかないと。

図書館 2週間にしたというのは、貸出を待っている方に対してという、予約の貸出待ちが大きく影響しているという部分です。予約を待っている方がたくさんいます。

利用者 だから、それは、雑誌が多いのではないですか。

図書館 雑誌や、人気の本などですね。

利用者 だから、そういうものは、私は1週間にしろと。100人も200人も待っている、それは重々知っていますよ。だから、そういうものは短期間でいいのです。そうでないと、次の号が出てしまう、待っている人はもう次の号が出てしまっ、もうパーになってしまうのですから。そこら辺をひとつ、よろしくお願いいたします。

図書館 システムの部分で言うと、その辺の区別分けというのは、なかなか、利用される方もわかりづらくなってしまっ、システム上の部分でも、どこまで対応できるという部分が難しいかなという気はします。その辺については、また光が丘と調整して、ご回答を差し上げたいというふうに思います。

利用者 中南米の展示のときに、ガルシア・マルケスの「百年の孤独」を出そうと思って、とりあえず南米のテーマで展示をしたら、それがなかったら話にならないぐらいの作品なので、展示したかったのですけれども。9月に予約を入れて、まだ入らない。もう展示が始まってしまっ、今年たまたま亡くなったから、みんな出払っ、しまっ、いる。

図書館 それは、予約がかなり入っているのでしょうかね。それから、蔵書数が何点ぐらいあるかということもあるかと。何かがあっ、急に話題になると急に予約が入りますよね。確かに資料を購入という部分でも、予約が多い本をどのぐらい買うかということはあるんですが、当然図書購入の全体予算は決まっていますので、予約の多い本を多く買えば、それだけ回転数はよくなるのでしょうかけれども、それを買っ、過ぎると、他の買っ、たい資料が買えなくなっ、てしまっ、という部分があると思いますので、それは兼ね合っ、いをもっ、て、選書しているということはあると思います。

利用者 そこで、蔵書数が不足していることもありますし、先ほどの「漱石入門」の例もありますが、どうして必要な本を保存しないで、廃棄ばかりしてしまうのですか。つまり、

その資料に対する価値観の判断が間違っているのではないですか。大事なものは保存していただきたいのです。と言うと図書館の方は場所がないからと言うのですよ。場所なんかは、今度、経営大学をつくるでしょ、あそこは、空き校舎が、ばらばらに全部あいているのです。あれを集めて、あんな交通のアクセスも不便なところで大学をやらずに、蔵書をあの部屋にやれば、幾らでも保存できるのです。場所がないという説明で、貴重な価値のあるものを廃棄する、本当にばかなことをやっているのです。もう少ししっかりやってもらいたいのです。

利用者 蔵書構成のことですけれども。例えば練馬図書館ですと、10万冊の一般書に対して、青少年と児童書が大体4万ぐらいとかになっていますね。でも、光が丘図書館なんて蔵書の半分くらいは児童書なんです。これは中央館として、地域間の役割の違いみたいなことでしょうか。学校支援の本を用意しないといけないとか、それに関連して必要なのでしょうか。青少年までの人口比率が15%ぐらいですね。区民の中で二十歳以下の青少年・子どもが。

図書館 青少年の図書というのは、もっと少ないということが。

利用者 青少年は少ないですね。

利用者 私は、児童や青少年の図書サービスに余りかかわっていないから、大人の本が少なく、少なくてという嘆きが強いのですよ。

図書館 児童書の方が、それこそ幅広いのではないですけれども。

利用者 そうですね。

図書館 赤ちゃんが読むものは1年生は読まないし、1年生の読むものは6年生は読まないし。大人の方は比較的、20代・30代・40代となるけれども、割と同じ本を読めます。ジャンルはいろいろだとは思うのですけれども。あと、児童の場合は、おっしゃっていただいたように、学校の支援もあるけれども、同じタイトルの本が何冊もあるというのがあるのです。蔵書数は、タイトル数ではないので、例えばブックスタートという赤ちゃんの本なんかは、同じタイトルの本が5冊も10冊もあったりする場合もあるので、タイトル数だと、そんなにはないかなという気はしますが。

利用者 一般書が少ないということなのですよ。

利用者 そうですね。大人の部と子どもの部と、大変恐縮ですけれども、大人の分の蔵書か廃棄かというのを決めるのに、どうも決める方の、丸投げではないですけれども、司書の頭の中には、結局、新しいものが情報だというふうな観念があるのではないか。つまり、

古書は買ってないでしょう、練馬区は。今から2000年も2500年も前のギリシャのプラトンだとか、アリストテレスだとか、そういう人たちの知恵から、随分と我々が教えられることが多いですよ。

利用者 本の中に。

利用者 本の中に。全部古いものを廃棄してしまったら、どうするのですか。みんなそうでしょう、古いものを残していないではないですか。借りてくるのは、周辺の、ほかの区ばかりではないですか。下町の方は古いのを割と持っているのですね。だから、私が今借りている本の一つに、月島図書館。それが一番裏のところに、ぼんと判を押しているのです。

図書館 蔵書ということですね。

利用者 蔵書として。それを、平和台図書館も持っているのです。それを大泉図書館で借りてもらった。それはどういう経路で、借りてきたものをまた購入してきたのか。あの本を関町で廃棄したときに、全部の図書館に、私が欲しかった本を廃棄するときに聞いたら、一番必要であると思って貫井図書館に聞いたら、貫井も要らないから廃棄しましたと言われた。どうして廃棄するかと言った。その後の館長会議のときに各館回って、4館か3館かに言ったのです。そうしたら大泉図書館でまた買ったのです。そういう非常に不条理な無駄なことをやっているのです。そういうことはしっかりしていただきたいです。どういうふうな蔵書基準であって、どういう頭でもってやっているのか、どういう人がやっているのか、ぜひ知りたいと思います。放出図書というのは、どんな基準で決められているのですか、本がどんどん捨てられているという。

図書館 複本が幾つかあって利用が少なくなつて、あるいはかなり汚れてきたとか、貸出するには適しなくなったものとか、あと、寄贈されて、図書館の蔵書にはしない本。ご本人にも、もし、蔵書にしない場合はリサイクルコーナーに出していいと了承をされている本というのを、リサイクルコーナーに出しています

図書館 ご寄贈いただいた本がきれいなときは、ご寄贈いただいた本を蔵書にして、既に蔵書の汚い本を、リサイクルコーナーに出させていただいたりとか。ガイドブックや法律の本の改訂版が出た場合には、古い版が図書館にあることの方が良くないということがあるので、改訂版が出た場合は新しい版のものを買って古い版のものを皆さんに差し上げます。それから800件も700件も予約が入っているときは、練馬図書館も3冊同じ本を買ったりするけれども、それがめぐりめぐって、もう人気もなくなって、本もかなり傷んできた

場合は、汚いものから2冊は処分して、1冊だけ棚に残すとか。

利用者 今日は出てきてよかったですよ。 今のご説明を伺って、僕は何年間も前ですけども、1冊だけ返そうと思ったら、いや、もう返していただいていますから、ありませんと言われたので、蔵書という判こを押してしまったのですがそのまま残っていたのです。いや、残っているのではないか、返さなければならないかと言ったら、いや、もうありませんと。次を買ってしまったから、要らなくなってしまったのだと今の話でわかりました。

図書館 そういうことはあります。

利用者 では、ありがとうございますと言わなければいけませんよ。

図書館 あと、ずっと不明になっているような本というのは、もうこれは回収できないというので、電算上それは除籍という形で蔵書になっていないという場合もあります。

図書館 他にもご意見がおありでしたら、どうぞ。

利用者 この椅子ですね、硬くていいのですけれども、2時間座っていると結構つらいですよ。それで、クッションか何かを別に借りられると良いのですが。

図書館 なるほど。机の方は、これは昨年入れかえて、かなり軽くなったのですけれども。では、その辺については、検討させていただきます。

図書館 ほかに設備面とか、そういったものを含めてご意見を聞かせていただければと思います。

利用者 貸出期間が2週間になった後の、全体状況はまだわかりませんか。

図書館 まだわからないのですけれども、こちらの方で、図書館メール便の処理とか、予約の本の処理とかをしている予棚と言う、予約している本が置いてある棚がかなりいっぱいにきつくなってきているのです。ということは、回転数が上がっているのかなという気はしています。ただ、それは実際に数字で調べたものではなく、感覚的にですが、日によってはあそこの棚に入り切れなくて、ブックトラックに乗せてご案内しているという日もあるのです。

利用者 そうですか。

利用者 子どものよみきかせの会は幾つかありますね。老人用によみきかせるということを、これから老人が増えてくるでしょう。だんだん読むのも苦痛になってきたりする人に、同じ老人でいいから、ボランティアになった人が、老人用によみきかせというののもあっていいのではないかなと思います。

図書館 図書館によっては、大人のためのよみきかせとか、講演会を実施しているところ

もあるのです。ただ、定期的にやっているわけではないので、図書館のホームページに、そういった催しがあると載りますので、一度参加していただければと思います。貫井図書館でも結構やっていると思います。

利用者 「高齢者向け」とうたっていないけれども、大人のおはなし会をやっていますので、どうぞいらしてください。

利用者 やっているのですか。

利用者 はい。

利用者 行きたいです。この間、樋口一葉館で樋口一葉の朗読会があって、応募したのですけれども、3回あったのですけれども、すごい人気で全部落ちてしまったのです。ああいうのだったら、読む方は大変だけれども、聞く方は随分とうれしいのではないかなと。

利用者 需要と、配信する方と食い違っているというか、うまく合っていないのかしら。この間、光が丘図書館の人に言われたのですけれども、大人のためのおはなし会を、春日町か、光が丘図書館でも企画しているのですけれども、まだ枠があるからぜひ参加して下さいと、お声がかかりました。私はあまり関心がなかったもので、ほかの人には声をかけたのですけれども。そういう、やりたい、参加したいという人と、やっている人と、何かミスマッチがあるみたいですね。

利用者 でも、あるのですね、現に。一度そういうところにも行ってみたいですね。

利用者 自分の住んでいるところの身近な図書館で、開催してほしいですね。

利用者 そうです。歩いていける距離とかがいいなと。

利用者 最後になるかもわかりませんが、練馬区立図書館ビジョンの話で四つある柱のうちの一番最後に、「区民や地域との協働」というくくりで、また三つに分かれている右の方に、いろいろと図書館サポーターだとか、図書館事業への参加だとか、その他、下の方にありますね。ビジョンができてから1年ちょっとですが、このうちで、どの部分が実施されて、これからどういう部分を実施していこうと館長はお考えですか。それをお聞かせください。

図書館 ここの「区民や地域との協働」という部分では、まだ今、準備段階ですけれども、練馬図書館に、布の絵本という、布でできた絵本で、いろいろな部分が取り外しができる、もともとは障害があるお子さん向け、今はほとんどのお子さんたちが利用しています。その布の絵本に関する活動を、地域のボランティア団体と協働していきたいというように考えています。布の絵本製作の講習会を通して、ボランティア団体を今年度中に支援し始め

たいなということで、行く行くは、実際に団体が自分たちで布の絵本がつくって行けるように今準備をしているところです。

利用者 それだけですか。

図書館 区内の大学との協働で、武蔵大学の先生と、ゼミの学生さんが図書館に来て、先ほどおっしゃられたような、閉架も含めた図書館の案内と図書館の使い方の見学案内を実施しています。大学生は、学校の図書館もあるのですけれども、図書館でレファレンスができるのだということを余り知らないというので、春先に一度、20名ぐらいの学生さんが来て、図書館のレファレンスの話をさせていただいて館内閉架も含めた見学をしたのですが、けれども、また、この12月にも実施します。あと、小竹図書館で、武蔵野音大の先生にレクチャーさせていただいて、音大の資料室をツアーで行って見学会をしましたが、ぜひ練馬図書館でも、少し落ちついたら、そういう企画とかはしたいと思っているところです。

利用者 そうですか。その話を聞いて、また杉並の話で恐縮ですけれども、杉並は、大学と短大で五つあるのです。明大だとか、高千穂だとか。それで、それがコンソーシアムで、区と図書館と、公立図書館と協議会をつくりまして、両方とも開放しまして、大学の図書の本を区民は借りられるのです。それから、学生は大学があるので、直接区内の図書館で本を借りられるのです。だから大学の図書館の蔵書が生きてくるのです。さっき言いました250万ですか、それプラス、だから大変な資料なのです。

そういうことを、3校ありますから、日大芸術学部を加えて武蔵大学、武蔵野音楽大学と、ぜひそれをやってもらいたい。全国でも、2000年ちよどかな、文科省の生涯学習審議会でも、そういうコンソーシアムを組んでやりなさい、やることが望ましいという答申が出ていますから、よく見てください。それから、いいことはどんどんやってください。やることはいっぱいあるのですよ。

図書館 そうですね、練馬区立図書館をご利用の方も、武蔵大学図書館に登録できます。

利用者 3,000円かかります。

図書館 そうなのです。費用がかかるというのと、区の機関にない資料というのが利用条件になっていますけれども、そういった部分を広げていくというのが提携強化ということになるかと思うのですけれども。

利用者 個人的なことを申し上げて恐縮ですけれども、私の家族が、何で公立図書館がただで貸してくれない、3,000円も出して武蔵大学から借りるのかと言われて、そう言ってみれば、大学から借りなくてもいいのかと思って、やめてしまっていましたけれども。

武蔵大学の2階から図書館の2階を見るのは、非常に眺めがいいですよ。

利用者 ですよ。

利用者 非常にいいですよ。

利用者 私は、学習院大学図書館の本は自由に借りられるのですが、学習院は本当に蔵書が少ないのです。だから、違う蔵書が来たらと思うのです。例えば宮家の蔵書とか、古文書とかは学習院大学図書館にあります、そういうのは、私は全然関係ない。この間、私は、「白磁の人」という本を借りたくて、たまたま学習院大学図書館にいたから、そこで借りようと思ったら、蔵書がないのですよ。それで、練馬区立図書館に来て頼んだら、すぐにあったから、本当に信じられないという感じで。本当に、私は涙が出て、すみません。私は何でも感激してしまうのです。大喜びしてしまう方で。

利用者 武蔵大学図書館は文科系だけで65万冊持っているみたいですよ。

利用者 でも、3,000円払うのは。

図書館 では、ほかにはご意見はおありでしょうか。

利用者 15日の光が丘図書館長との懇談会でも出てくると思うのですが、練馬区立図書館ビジョンに「図書館事業への参加・参画の推進」というのがありますよね。それで、図書館サポーターという言葉が、これが宙に浮いているというか、ちゃんとした中身のある言葉として共通理解がまだないふうに感じるのですけれども。

図書館 具体性ということ。具体的な、どういった構成かという。

利用者 サポーター活動とは何かというのは。

図書館 定義づけという、そういうことです。

利用者 それをまた15日にお聞きしたいと思うのです。

図書館 わかりました。そうしていただければと思います。では、ちょうど時間ということで、今日いただいたご意見については、練馬図書館ですぐ対応できるものについては、先ほどの椅子の関係ですとかは、対応していきたいと思います。光が丘図書館と調整してご回答という件もありますので、お時間がある方は、ぜひ15日に光が丘図書館長との懇談会に来ていただければ、また全体的なお話ができるのではないかと思います。今日は、貴重なご意見をどうもありがとうございました。